

2023 年 3 月 23 日

関係者各位

2023 年度 競技会運営方針について

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より日本ライフセービング協会（JLA）の諸事業に対しまして多大なるご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

JLA は新型コロナウイルスの感染状況及び社会情勢を踏まえて、2020 年度における全ての競技会を中止しました。その後の 2021 年度、2022 年度においては、感染対策をとりながら競技会を再開、継続してまいりました。

そのような状況においてもライフセービングスポーツ本部では、中長期的なライフセーバーの育成を進めるべく、将来の発展を見据えた競技会のあり方について、これまでの流れを汲んだ上で踏み込んだ変更を含めてご提示します。

敬具

記

ライフセービングスポーツの役割

ライフセービングスポーツの役割を引き続き、以下の 3 点とする。

- ライフセーバーに求められる救助に必要な技術や体力の向上を目的とすること。
- 誰でもライフセービングを始められる活動への入口と位置付けること。
- スポーツの魅力を活用してライフセービングを広く社会へ認知させること。

各競技会の方針について

【全日本選手権（予選会）】

- 予選会は、地方ブロックごとの自主開催とする。
- 予選会の名称には、地方ブロックの名称を反映させる。
- 予選会は、地方ブロックを組織する都道府県協会の主催を基本とする。
- 本戦の約 2 週間前までに本戦出場選手名簿を JLA に提出する（2023 年度は 9 月 25 日（月）予定）。選出の方法は、地方ブロックまたは競技会主催者に委ねる。
- 予選会は、JLA の定める A 種認定競技会もしくはそれと同等での実施が望ましい。ただし、体制が整わない場合には公平な選出が実施できればよいものとし、予選会の形にはこだわらない。

【全日本選手権（本戦）】

- 国内最高峰の競技会と位置づけ、予選会で厳選された選手だけが出場できるものとする。
- 観客など競技会を観る人たちにとって、魅力のある運営を仕掛けていく。
- 本戦は、JLA が主催する。
- 国際化を進め、国外からの選手を受け入れる（本戦からの合流を想定、具体的な対応については協議中）。

【全日本プール選手権】

- ILS 承認を引き続き取得し、世界記録の申請が認められる競技会とする。
- 国際化を進め、国外からの選手を受け入れる（オープン参加とはしない）。
- 個人 2 種目限定の出場制限を設けず、タフな選手が育つ環境を用意する。
- 一部の種目において、タイム決勝ではなく予選と決勝を行う。

【全日本種目別選手権】

- 国際化を進め、国外からの選手を受け入れる（オープン参加とはしない）。

【SERC 選手権】

- 世界選手権の運用にならって、SERC 種目単独の開催とする。
- 世界選手権に通用する競技者および採点員（テクニカルオフィシャル）の育成をする。
- SERC のシナリオ作成および競技運営ができる人材育成を継続する。

【全日本 IRB 競技選手権】

- 国内初の IRB 競技会の成功を目指す。
- 世界選手権に通用する競技者およびテクニカルオフィシャルの育成をする。
- IRB 競技会の運営ができる人材育成をする。
- IRB 競技を通じて、IRB を用いたレスキューの知識と技術の向上を図る。

【ジュニア・ユース・マスターズ選手権】

- ジュニア・ユース・マスターズシリーズは、以下の 3 つに分けて進行する（ただし、競技日程や会場の都合により、同日併催を前提とする）。
 - ジュニアシリーズ
 - ユースシリーズ
 - マスターズシリーズ
- 各カテゴリの実施方針は以下の通りとする。
 - ジュニアシリーズ
 - ◇ **ライフセービングの入り口、ライフセーバーシップの醸成**
 - ◇ 「アンダー制」を採用する。以下の 3 区分とする。年齢の基準は、その競技会を実施する「年度末に当たる 4 月 1 日時点」とする。

- ① U12 12 歳以下
- ② U10 10 歳以下
- ③ U8 8 歳以下

- ◇ 一つ上の区分に限り出場を可能とする（U8 の選手は U12 の区分には参加できない。また、U12 の選手はユースシリーズには参加できない）。
- ◇ 個人種目では、男女を分けてエントリーおよびレースを実施する。
- ◇ チーム種目では、男女を分けてエントリーおよびレースの実施を基本とするが、男子種目にのみ女子の混合を認める（ただし、男子を 1 人以上含むこと）。

➤ ユースシリーズ

- ◇ **自らの意思でやりたくなるスポーツへ、全日本・世界選手権への登竜門、真剣勝負での勝敗を通じた育成、競技力向上に向けた知識の獲得、ライフセーバーシップの体得**
- ◇ 「アンダー制」を採用する。以下の 2 区分とする。年齢の基準は、その競技会を実施する「年度末に当たる 4 月 1 日時点」とする。

- ① U18 18 歳以下
- ② U15 15 歳以下

- ◇ 一つ上の区分への上場を可能とする（ただし、U18 の選手はマスターズシリーズには参加できない）。
- ◇ 個人種目・チーム種目共に、男女を分けてエントリーおよびレースを実施する（チーム種目の男子種目において、女子の混合を認めない）。

➤ マスターズシリーズ

- ◇ **生涯スポーツとしての楽しみ、自己・歴代記録との戦い**
- ◇ 年齢区分は、ビギナークラス、23-29 歳、30-39 歳、40 歳以上の 4 区分とする。「ビギナークラス」とは、これまでライフセービングスポーツの経験が浅い人を対象とし、23 歳以上であれば年齢区分を不問とする。年齢の基準は、その競技会を実施する「年末に当たる 12 月 31 日時点」とする。
- ◇ チーム種目に限り、「該当種目に出場をするチームメンバーの合計年齢」で考えるものとする。2 区分とし、その分け方の考え方は、30 歳を基準にその種目の必要人数を乗じたものとする。

※例：4 人種目の場合→30 歳×4 人=120 歳が基準

- ① 119 歳以下
- ② 120 歳以上

- ◇ 個人種目では、男女を分けてエントリーおよびレースを実施する。
- ◇ チーム種目では、男女混合でのチーム編成とする。

● 2022 年度に引き続き、ビーチ種目とサーフ種目、プール種目に分けて実施する。

➤ ビーチ種目・サーフ種目

3 カテゴリーとも同日程での実施予定とする。

➤ プール種目

ジュニアおよびユースを同日程での実施予定とする。マスターズはジャパンオープンでの

併催予定とする。

- 競技会単体の総合順位は、各競技会の各カテゴリにおいて算出する。ジュニア・ユース・マスターズの全てのカテゴリを合算した「クラブ総合順位」は廃止とする。

シリーズ化について

- プール競技、オーシャン競技、SERCの3つの競技を基本として、カテゴリ別のシーズン総合順位をつけ表彰する。
- 全日本種目別選手権はシリーズ化の対象としない。国外選手やライフセービングスポーツに興味のある人が参加のしやすい、開かれた競技会とする。
- シリーズ化に伴い、第1種、第2種、第5種及び第6種加盟クラブが活躍する【全日本シリーズ】と、第3種及び第4種加盟クラブが活躍する【全日本学生シリーズ】へと競技会を整理する。両方のクラブ形態に活躍の場を作ることで、それぞれの発展を後押しする。

各競技会における対象区分と資格要件について

2022年度に引き続き、基本的には変更なし。ただし、ベーシック・サーフライフセーバー資格またはプールライフガード資格等の指定を無くし、「認定ライフセーバー資格」に統一する。

競技会名称	対象区分	資格要件
全日本選手権	12歳以上 ※中学生条件付き	認定ライフセーバー (高校生：WS&BLS) (中学生：WS)
全日本プール選手権※		
全日本SERC選手権		
全日本学生選手権	大学生、短大生、 専門学校生のみ	認定ライフセーバー
全日本学生プール選手権※		
全日本学生SERC選手権		
全日本IRB選手権	16歳以上 ドライバー18歳以上 ※ただし、要件検討中	ドライバー：IRBドライバー資格 クルーパーソン：IRBクルー資格 ペイシェント：認定ライフセーバー ※ただし、要件検討中
ジュニアシリーズ	小学生	なし（推奨）
ユースシリーズ	中学生・高校生	
マスターズシリーズ	23歳以上	
種目別選手権	12歳以上 ※中学生条件付き	なし（推奨）
オーシャンサーフチャレンジ	15歳以上	なし（推奨）

※全日本プール選手権と全日本学生プール選手権は標準タイム突破者とする

競技会名称	対象区分	資格要件
認定競技会	競技会によって	主催者判断
その他の競技会		

中学生の全日本選手権および種目別選手権への参加について

国内において中学生が参加できる競技会はまだまだ少ない。それを補うために特別な条件のもとに全日本および種目別への参加を認めることにより、才能ある中学生に挑戦の場を増やし、その成長のための環境を整えることを実施していく。

しかしながら大人に混じって競技に参加することは、体格に勝る大人とのコンタクトによる怪我や様々リスクが考えられる。そのため中学生のだれもが気軽に参加すべきではなく、サーフライフセービングインストラクター資格を所持するユース指導責任者（以下、ユース責任者）、その保護者、そして本人が、本人の力量を見極めた上で覚悟を持って参加するべきである。

さらには体格差、技術、体力、怪我の可能性などに少しでも不安がある場合、勇気を持って参加をとりやめるべきである。

上記の考えのもと、以下の条件において全日本および種目別への参加を認めるものとする。

【参加条件】

- ユース責任者と保護者は、参加する全てのレースに立ち会えること。
- 中学生が参加できる種目は当面、体への負担の大きいサーフスキーを使用する種目やコンタクトの多いビーチフラッグスを除く。サーフレース等のスイム関連種目については、ジュニア・ユース・マスターズ選手権大会のサーフレース高校生の部において8位入賞したもののみ出場を可能とする（競技会エントリー時点では8位入賞した実績を持っている必要はないが、8位入賞できなかったために競技会参加資格が得られなくてもエントリー費の返金はされない）。
- 本人の参加が、競技会進行を妨げないこと。
- 全日本ユース選手権の高校生の部で入賞を目指せる実力を持つこと。
- 競技会主催者には、主観的な判断で中学生の参加を止める権限があり、その判断に対する抗議は受け付けない。また、いかなる理由においてもエントリー費の返却はしない。

【参加方法】

- 競技会会場で立ち会うユース責任者と保護者が、参加する本人の体格・技術・体力・精神面および海のコンディションをレース毎に確認し、話し合い、参加の是非の判断を自身の責任において行う。
- その際ユース責任者は、ライフセーバーとして、またサーフライフセービング・インストラクター資格保持者として、慎重な判断を行う。
- ユース責任者と保護者の両名が免責条項を含む特別同意書へサインし、両名同席の上でこれを競技会実行委員会へ提出すること。（詳細は各競技会要項を確認）

以上

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部
info@jla.gr.jp



水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会